

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 認知症高齢者グループホームおりつめ

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393100011		
法人名	社会福祉法人 九戸福祉会		
事業所名	認知症高齢者グループホームおりつめ		
所在地	〒028-6502 岩手県九戸郡九戸村大字伊保内第8地割15番地1		
自己評価作成日	令和2年9月22日	評価結果市町村受理日	令和2年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者、ご家族はもちろんのこと、地域の方との関わりを積極的に行っている。グループホームへ地域の方が来て下さるだけでなく、利用者と一緒に地域の行事へも参加をし、交流が出来るように努力しています。
地域、家族の方が野菜を持って来てくれる。自宅へドライブに出かけることもあり本人の安心できる時間となっている。ただし、今年度に限りは新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、家族の面会、地域の方々との交流が制限されている現状です。
そのような中において、利用者の希望を取り入れた食事会のメニュー作成等やドライブによる外出等を実施している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、村役場や総合福祉センター、県立病院、信金、JA等が集中する地域に隣接して立地されており、100mほど離れた高台には運営母体法人の本部や特養、通所介護、訪問介護、居宅介護支援等の事業所があり、村の介護サービスの拠点になっている。ホームの利用者の平均年齢が90歳を超えているが、殆どの利用者が支障なく歩行し、食事も介助なく楽しんでおり、ホームの介護技術の質の高さと日々の丁寧なサービスの積み重ねが伺われる。玄関脇に10畳ほどの和室があり、利用者が職員と掘こたつで歓談している姿が印象深い。「家族アンケート」を実施し、意見や提案を運営に活かしており、ホームと利用者や家族の一体感も感じられる。これまでの地域との交流をベースに、近隣の方々から花壇の整備や野菜等の差し入れがあるなど、何かと気配りや協力をいただいております。コロナ禍の中でも、地域密着型のグループホームとして地域との繋がりを大切にしながら生活している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号		
訪問調査日	令和2年10月7日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営理念は、施設内(玄関、手洗い場、トイレ等)の見える場所に掲示している。会議時に使用する資料にも明記し、職員間に周知、共有できるように努めている。事業所スローガンに「安全・安心・快適に」を掲げ、サービスの基本としている。スローガンを明記したパンフレットを法人本部の玄関に置き、閲覧に供している。	運営母体の経営理念を基に「安全 安心 快適に」をホームのスローガンに掲げ、毎年度、運営方針や目標管理計画を定め、スローガンの実践に取り組んでいるが、運営方針、目標管理計画ともケアサービスを提供する視点での具体性に欠ける面が見受けられる。	ホームのスローガンがより介護サービス提供の場に反映されるよう、取り組みの具体的な目標を定期的に設定し、職員間で共有しながらサービスを展開するなど、利用者との関わりの中でスローガンが実践に繋がっていくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日中は玄関を施錠せず、玄関前にベンチを設置し、地域の方にも休んでいただけるよう工夫している。今年度は地域の方に参加いただく行事は感染症予防対策で中止としているが、近所の方から花を植えていただいたり、散歩途中で声を掛けていただくなどの支援を得ている。ドライブでは馴染みの場所へ弁当持参で出掛けている。	昨年までは、利用者出身地域の恒例のお祭り見物、保育園との交流、夕涼み会、敬老会等のホーム行事への地域の方々の招待等、地域との交流を活発に行っていたが、今年は全て中止となっている。こうした中でも、散歩の園児からの元気な挨拶や花壇を作ってくれたり、野菜の差し入れをしてくれる近隣の方々の支援や協力が利用者を力づけてくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染対策を行った上で外出や散歩を行っているが、利用者が地域や外出先で出会った方々とコミュニケーションをとる際に、認知症に理解をいただけるよう職員は知見を活かして啓発に努めている。職員の認知症とそのケアに関する内部研修や勉強会を定期に開催し、専門性を高めることにも力を入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回会議を持つことで計画している。会議では感染対策等の意見もいただくことが出来ている。職員の研修参加内容、是正報告、ヒヤリハット報告、身体拘束禁止への取り組み、待機者報告など、運営に関する説明を行い、意見交換を行っている。	4月の会議はコロナウイルス感染予防のため関係資料の送付による書面会議としたが、以後の会議は近くの法人本部内の特養の会議室を借りて開催している。委員と法人内の地域密着型特養の2施設及びホームの職員とによる合同研修会の開催やオレンジカフェと称し、委員を利用者がお茶でおもてなしする企画など、委員にホームを理解いただくための意欲的な取り組みを行っている。保育園勤務経験のある委員から検便等による感染症対策への助言をいただいた。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回の法人主催の「入所検討委員会」に地域包括センター職員、民生児童委員の参加があり、情報を得ている。運営推進会議にも地域包括支援センターから職員の参加をいただき、事業所内の活動の報告を行い、協力、助言を得ている。	行政との連携、連絡は、主として法人本部(事務局)が行っているが、ホームとして直接、情報のやり取りを行うこともあり、連携は良好である。法人の「入所検討委員会」は、行政や住民に関する情報を得る機会になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜勤職員が1名勤務となる時間以外の玄関施錠は行ってない。毎月「身体拘束廃止適正化委員会」を開催し、身体拘束について検証、確認しており、代表者も参加している。また、「危険予知訓練研修」を毎月開催し、職員間で困難事例やヒヤリハット事例の検証を行っているが、身体拘束につながりそうな事例についても確認している。身体拘束に関する研修会も年2回開催し、知識の確認、周知を行い、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	ホームとして「身体拘束の廃止に向けた指針」を策定し、職員全員に各施設を総括する所長を加えた「身体拘束廃止適正化委員会」を毎月開催し、スピーチロックも含めた身体拘束防止の話合いを行っている。また、事故発生予防や再発防止のための「危険予知訓練研修」においても、身体拘束や行動制限のないケアをテーマに加えている。ホールから死角になる居室があり、安全確保のためドアに鈴をつけ、また利用者によっては感知センサーマットを敷いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本年度、職員全員で「認知症マニュアル」を見直し、認知症の人の尊厳を守ることを付け加え、虐待防止も含め、一人一人を尊重するケアを再確認している。「身体拘束廃止適正化委員会」や「グループホーム会議」でホームの生活の中で虐待に繋がるような事例が発生することのないよう徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年度、管理者が権利擁護推進委員養成研修を受講し、職員に研修内容を報告、周知を図った。現在、成年後見人、代理人等権利擁護に関する制度を必要とする方はいないが、引き続き制度を学ぶ機会を作っていきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込み時点で施設を見学いただき、概要等の説明を行っている。入所の際には、利用料金、契約内容等について、契約書や重要事項説明書により丁寧に説明している。「グループホームおりつめだより」を活用し、利用開始の家族にお知らせやお願い事を発信している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、どなたからも意見等を頂けるようにしている。年2回家族対象のアンケートを実施している。本年度は、9月にご家族へ発送しており、現在集計中である。母体法人の苦情処理委員会へも出席しており、広く意見をいただいている。相談票を作成し、家族等から連絡、相談を受けた内容を相談票に記録し、適切に対応するよう努めている。	利用者はやって欲しいことなど、希望を気軽に話してくれる。面会がままならない現状の中、毎月定例の便りに加え、一人一人の生活の様子をスナップ写真によりA4版一枚にまとめ、号外として個々の家族に送付しており、喜ばれている。「家族アンケート」を年2回実施しているが、満足度、施設環境、希望することなど、気付いたことを丁寧に記してくれる。これまで、トイレの床汚れ防止マットレスの設置、保護テープによるトイレの手すりや洗面台の角の安全確保、足浴の実施など、提案を運営の改善に活かしてきた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われているグループホーム会議前に事前意見用紙を全職員に配布し、意見を出してもらっている。意見については、内部での話し合いの他、経営会議、所長面談時等に報告しながら、改善に取り組んでいる。	月1回の「グループホーム会議」の前月に「事前意見用紙」を配付し、意見を出しやすいように工夫している。ケース記録や掃除の時間確保等、勤務時間に関する意見や提案が多く、会議で話し合いながら解決しており、必要に応じ、法人の経営会議にも報告している。法人で人事考課制度を導入しており、所長が一人一人と個人面談しており、その際にも職員意見を聴取している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課規程により職員の努力の程度及び能力の保有程度を評価し、勤務意欲の高揚と業務効率の向上を目指している。また、各種諸手当の見直し等も行っている。(処遇改善手当等)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を提供している。また、外部研修については、職場内での伝達研修が行える様に取り組み職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会等の同業者の会議等に積極的に参加するよう努めており、ネットワークづくりや勉強会、研修会等を通じて、サービスの質向上につながる取り組みを行っている。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にこれまでの生活歴や希望を伺い、生活支援援助計画に取り入れている。要望等も丁寧に伺い、不安の軽減に取り組んでいる。言動や行動から本人の想いを受け止め、速やかに信頼関係を確立し、安心して生活ができるよう、利用開始時の支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には家族からも不安なことや要望・希望を伺い、生活支援援助計画に取り入れ、計画の内容を家族に説明し、安心してサービスを利用してもらえるように努めている。状態に変化があった時には、連絡を緊密に行い、家族と情報を共有しながら対処にあたっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族から丁寧に話を伺い、安心してサービスの利用を開始してもらえるよう努めている。母体法人での「入所検討委員会」においては、外部専門家にも参加してもらい、必要とする現状のサービスについて判断し、他のサービス利用も含め、適切な支援になるよう話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年間を通して野菜作りを行っており、栽培方法、植える時期等、利用者の皆さんが主体となって活動している。日常生活においても食事の用意や洗濯、掃除等、できる範囲のことを協力してやってもらっており、利用者同士が共に支え合う関係も築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会、外泊、外出等、本人の意向や希望を家族に伝え、協力を得ているが、現在は、感染症対策のため面会等を禁止させていただいている。洗濯物や好みの食品を届けてもらうことで家族と利用者の絆が保たれており、絵手紙で利用者を励ましていただいているケースもある。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中、馴染みの理容店や美容室に出掛ける利用者に職員が付添うなど、本人の思いに寄り添った支援に努めている。ドライブで自宅や家族の家などに出掛けることもある。通院時は、自宅で過ごされていた時と同じく家族が同行して支援しており、安心した生活を送ることが出来ている。	散歩時に会う近隣や地域の方々とは、距離を置いて会話を楽しんでいる。昔馴染みや古くからの知人が、系列の特養におり、時折、交流している。ドライブの際、自宅周辺を回るなど、出来るだけ馴染みや思い出のある場所に出掛けるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月の定例の会議や連絡ノートで共有、角煮を行いながら、孤立する利用者が出ないように、利用者同士の支え合いを引き出せるよう、必要に応じ、職員が仲立ちに入るなど、利用者同士の良好な関係づくりを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度において契約を終了した方はいない。以前、特養入所となった利用者は法人運営の特養に入所されており、面会へ出掛けるなど繋がりを継続している。現在、ボランティアで来ていただいている美容師さんは、以前入所されていた方の親戚さんからの紹介によるもので、これまでの利用者との関係が様々な形で生きている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話から本人の思いや希望、不安なことを伺えるように努めている。また、伺った内容については、相談票を活用、供覧し、職員全員で共有している。思いをうまく伝えることの困難な方については、行動や仕草、体調等で把握に努めている。	利用者のほぼ全員が思いや希望を意思表示することが出来、一人一人から把握した内容は、「連絡ノート」や「相談表」に記録し、職員間で共有し、ケアに反映している。言葉にしにくい思いは、日々の行動や表情から汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者からこれまでの生活や思い出を普段の会話を通じて伺っており、家族からも生活歴を確認している。在宅生活から入所いただいた利用者については担当の地域支援専門員から情報を得ている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	連絡ノート、相談票、朝・日中の申し送りにおいて、一人一人の状態の把握に努めている。日々の生活の中で出来ること、困難になっていることなどの観察、把握に努めている。心身の負担やストレスなく生活していただけるように体調、精神面の支援を継続している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や生活状況のアセスメントを毎月会議等で話し合っている。会議前後においてもモニタリング等で変化があった利用者については担当職員、支援専門員を中心に話し合いが出来ている。家族からのご意見や要望についても面会時(来荘時)に伺い、職員間で共有し、生活支援援助計画に取り入れることが出来ている。	利用開始時の計画作成担当者(介護支援専門員)のアセスメントをもとに作成した「生活支援援助計画」について、毎月、居室担当者のモニタリングをもとに計画策定担当者を中心に意見交換やカンファレンスを行い、現状に合った計画になるよう、設定した見直し期間(6ヵ月)に限らず、状況変化に応じ、必要な見直しを行っている。見直しに当たっては、家族や必要に応じ関係者の意見も活かすようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子については、ケース記録等に記録するとともに日々の申し送り、連絡ノート等にも記録し、職員間で共有しており、家族にも毎月必要な情報を伝えている。これらの情報を毎月のグループホーム会議での生活支援援助計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な体調不良による通院や家族が対応出来ない場合の通院については、職員が対応している。今年度は、職員が感染予防対策を行ったうえで定期通院に同行している。本人や家族の状況変化に柔軟に対応するよう心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民からは、散歩時の付き添い、施設周辺環境整備等、日常的に利用者の暮らしに支援をいただいている。また、地域の警察駐在所に必要な情報を提供し、連携体制を整えている。コロナ禍の中でも近隣の方々の支えは心強い。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医に受診することが出来ている。通院時には利用者の情報提供用紙を作成し、活用している。職員が対応した場合には、家族と随時連絡を取り、状況を説明している。利用者の状態によっては、専門医に受診してもらっている。	地元の診療センターの他、隣の市の県立病院に定期通院している。家族同行が基本であるが、現在は職員が対応している。特養の看護師に随時相談に乗ってもらうとともに、月2回の「リハビリの日」に来所してもらい、利用者のバイタルチェック表の確認や助言をもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、訪問看護を利用している方はいない。法人内の看護職との連携協力が取れる状況にあり、口頭で相談を行い、アドバイスをもらっている。感染症対策では法人の感染対策委員会に参加、情報、アドバイスを得ている。緊急通院の際は、医師や看護職に報告、相談を行い、指示、指導の下に職員が同行している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となった場合は、介護支援専門員が直接病院に出向き、病院関係者とカンファレンスを行い、情報共有を行うようにしている。また、入院中にも病院や家族との連絡を密に取っている。遠方の家族からの依頼で、入院時のカンファレンスに代わりに出席することもある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアについては現時点では行っていない。重度化が進むなど、変化が見られる利用者については、経営会議に報告し、今後に向けた情報交換を行っている。また、グループホームでの生活が困難になられた場合の家族からの相談にも応じている。今後も、利用者や家族の意向を踏まえながら、ホームとして出来る最大限の支援を行うこととしている。	利用開始時に、重度化や終末期についてホームとして対応出来ること、出来ないことを説明し、同意いただいている。医療連携の体制が整っていないため、これまでのところ看取りは実施していない。運営母体を同じくする特養や地域密着型特養が近くにあり、要介護度3を超えた場合は、申し込みの手続きができることを家族に話している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の安全な暮らしが守られるよう、応急手当普及員講習受講終了者を中心に避難訓練を毎月実施している。今年度は、感染症対策を講じながら応急手当等の研修を開催予定である。また、AEDについても、玄関に設置し、使用方法について、職員間で確認を行う予定である。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月火災による避難訓練を行っている。職員、利用者が共に安心して暮らしを継続出来るように取り組んでいる。居室に防災頭巾、避難時に利用者確認を行うための避難時個人カードを避難袋に用意している。自然災害マニュアルについても整備し、職員への周知を図っている。	毎月1回、夕方に利用者も参加し、夜間想定 of 火災避難訓練を実施しており、年1回は消防署に立ち会ってもらい、指導を受けている。年1回の通報訓練も実施している。昨年、浸水危険地域に指定されたことから、浸水等も加えて「自然災害発生時対応マニュアル」を見直し、避難場所は高台にある本部内の特養とした。本部を中心に備蓄をしている。利用者全員の写真付きの個人カード、かかりつけ医、病名、応急薬等を入れた避難袋を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳についてマニュアルの見直しを職員全員で行い、言葉掛けに注意し対応している。尊厳、理念、倫理、法令順守について、法人内研修が行われる予定であり、参加を計画している。接遇についても、チェック表を用いて職員が振り返りが出来るよう取り組んでいる。	本年9月に職員で話し合い、従来の「認知症マニュアル」に尊厳の観点から補足を行い、24項目のチェック表により、認知症に対する正しい理解に加え、利用者の尊厳を守るための振り返りを始めている。母の日や誕生日には職員からありがとうの言葉を贈るなど、日々、人生の先輩として感謝の気持ちを持って接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	平均年齢は90歳以上と高いものの元気な方が多く、日々の会話、表情、家族の情報から得られた思い、希望、関心等の実現に向けて、その人の力に合わせ、自分で決められるような問いかけや決めやすく、選びやすい働きかけを行い、利用者自身で決められる場面をつくるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩の希望が多く、天気の良い日には近くの神社周辺まで出かけている。自宅を見に行きたいとの希望には、少人数で対応している。居室で過ごしたい方に対しては、体調の確認を行ったうえでゆっくりと自分のペースで過ごしてもらうよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服を選びやすく、探しやすいよう、ハンガーやタンスに整理、収納している。馴染みの美容室へ出掛けたり毛染めを職員が対応している。美容師のボランティアもある。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の方から野菜等の差し入れが多くある。利用者に調理を手伝ってもらい楽しみを持っていただき、出来ることを職員と一緒にやっている。購読している新聞のチラシ等で好きなものを選んでもらい、食卓に載せるなど、好みや希望を生かしたメニューを提供するよう努めている。時々、食べたいものを食べる会(昼食会)も開催している。	泊りの職員が2日後の献立を作り、食材を地元の商店や産直で購入している。昼食では、フロアに皆が輪になって集まり、お楽しみ会を開くことも多い。特にコロナ以降は外食を自粛していることもあり、月に2回は、鍋、鉄板焼き、焼きそば、たこ焼き、ふかし饅頭等、皆で食べたいものを話し合っ用意し、食事を楽しんでいる。利用者は、下準備、盛り付け、下膳、テーブル拭き等、できることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量について摂取した量を記録し必要量が摂取出来ているかチェックを行っている。野菜や雑穀を多く取り入れた料理を提供し、食事形態も柔らかい物を基本にお粥や一口大にし無理なく食べていただけるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては、食事前のうがい、食事後の義歯の洗浄、うがいを行っている。義歯のない方には、うがいの声掛けを行っている。また、義歯洗浄の難しい方は、職員が対応している。義歯は専用の洗浄剤で週2回消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	2居室に1か所のトイレ配置となっている。排泄チェック表を用いて利用者個々の排泄時間を職員間で共有するとともに、表情や仕草等を観察しながら排泄のトイレ誘導を行っている。ケアプランの目標に設定するなど、排泄改善を目指した支援を行っている。オムツ使用者はいない。	日中は、殆どの利用者が布パンツを使用しており、排泄チェック表で適時にトイレ誘導を行っている。夜はリハビリパンツにパットの人が増えるが、ポータブルトイレ使用者1名を除き、自分でトイレに立っている。殆どの人が一部介助と見守りの支援であり、リハビリパンツから布パンツに改善した人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れた食事の提供を行っている。起床時に乳製品の提供やオリゴ糖を使用し、快便に取り組んでいる。日中に水分を多く飲んでもらえるよう工夫しながら声掛けを行っている。便秘予防のため、ラジオ体操を午前と午後に取り入れている。また、出来るだけ歩くことを増やすよう取り組んでいる。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の希望があれば希望日に対応できるように工夫している。また、同性介助の希望がある場合には対応出来るようにしている。リフトを完備し、負担の少ない入浴支援を行っている。また、足浴をケアプランに取り入れ、支援している。	3、4名が1日おきのサイクルで週2回、午前中を基本に入浴しているが、受診等利用者の都合や希望により曜日を換えたり、午後に入浴になったりすることもある。利用者は職員と1対1で様々な話ができる入浴の時間を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に居室に休んでいただいている。食堂内で傾眠されている利用者に声をかけたり、和室でゆっくりと過ごしていただけるよう配慮している。夜間の睡眠が快適になるよう、水分や栄養の補給、排便、適度な運動等、日中の活動を支援している。また、居室にエアコンを設置し、過ごしやすい環境を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋、通院時情報提供用紙については、職員がいつでも見れるように綴っている。薬や治療方針に変更があった利用者については、状態や様子の変化を観察するように努めている。服薬時には、本人と職員で声を出して名前、服薬時間のチェックを行い、顔を見て本人であることを再確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生け花を生活習慣にして来られた方には、花の購入やドライブ時に道端に咲いている草花の摘み取りをお願いし、施設内や居室に飾っていただいている。また、農業に従事して来られた方には、負担にならない程度に畑仕事を手伝ってもらい、一年を通して収穫を楽しんでいただくなど、本人のこれまでの生活習慣や趣味をホームの生活にも活かせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	グループホーム周辺は自然に囲まれており、地域住民の散歩コースにもなっており、利用者と一緒に散歩される様子も見られる。今年度はコロナ感染症予防のため密にならない場所への外出を行っている。自宅を心配されている方には、家族の協力をいただきながら、ドライブで自宅に出掛ける支援も行っている。	天気の良い日は、職員と1対1で近くの神社周辺を散歩する。2、3人によるドライブが多いが、多人数になる時は、法人の車を借りている。春は高原の新緑、秋は稲の出来具合など、自然の移り変わりを楽しんでいる。今年の花見は、コロナの影響もあり、敷地内の桜を觀賞した。コロナ禍だが、出来るだけ外の空気を吸ってもらおう機会をつくりたいとしている。	

事業所名 : 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談し本人が居室内で管理している方もいる。事務室金庫に預かっている方については、本人から希望があった場合は確認をもらい、安心していただいている。家族に毎月小遣い帳のコピーを送付し、確認の印鑑をいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	食堂内に設置している電話機で希望があればご家族や知人等への電話の取次ぎを行っている。家族と手紙のやり取りを行っている方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量、職員間の声について気を付けている。温度計、湿度計を用意し調節を行っている。のれんを活用し遮光にも努めている。玄関にベンチを設置し、地域の方、利用者が気兼ねなく過ごせる空間作りに努めている。季節感を大切にしたり草花を飾るように散歩時等に野辺の草花を摘み取っている。	ホールはベージュ系のクロスの色と吹き抜けの天井の梁の木材がマッチし、落ち着いた空間になっている。多目的に使える和室が2室あり、掘りごたつのある和室は、おしゃべりや童謡を歌ったりしてくつろげる場所となっている。ホールのリビングには、季節感のある飾りや行事のスナップ写真が飾られ、暖かな雰囲気のある共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、食堂、廊下にソファを用意し、くつろいでもらえる空間づくりを行っている。また、和室にはコタツを用意し、思い思いの場所で過ごしてもらえるよう工夫している。居室内も、個々人が快適に過ごせるようにテーブルや椅子を用意し、ゆっくりと休息出来るよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた馴染みのものを持参してもらおうよう勧めるなど、利用者が不安とならないよう家族と相談しながら工夫した部屋づくりを支援している。殆どの方がベットを利用されており、状態に応じて介護ベットを使用し、本人に負担がかからないように対応している。	ベッドや小筆筒は利用者の持ち込みになっている。マットレスを敷いている利用者もいる。蓄熱暖房機とエアコンが設置されている。使い慣れた小物類や娘さんから送られた飾りびな、生け花や紙細工など自分の作品を飾り、思い思いの部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室から近い場所にトイレを配置し、居室の入口は段差のないようフラットにするなど、安心、安全な住環境づくりをしている。安全な歩行が出来るよう本人にあった歩行器やシルバーカーを用意している。夜間には、歩行が不安な方については、居室内にポータブルトイレを用意するなど、本人の身体状況に沿った対応を行っている。		